

キャリア形成支援セミナー

3. 企業(研究開発職)

岡 智子*

[Key Words] 企業の研究職(研究所)、企業の開発職(商品開発)

はじめに

私は大学院修士課程を修了後、2004年にシスメックス株式会社に入社しました。当社は、臨床検査分野を事業領域としたメーカーであり、主に検体検査で使用される機器・試薬の研究開発から生産・販売までを行っています。入社後の9年間は中央研究所で研究員として勤務し(途中約2年間の育児休暇を取得)、今年度より商品開発部へ異動となりました。そのため開発職に関してはまだ経験が浅いのですが、研究職と開発職という職種について紹介させていただきます。

I. 研究職と開発職

当社における研究職(研究所)と開発職(商品開発)は、単に業務内容や役割が異なるだけでなく、仕事のスタンスや価値観も大きく違います。「研究開発」という同じカテゴリーでありながら、そのカルチャーは全く違います。

研究所の役割は、診断コンセプトの立案や新規測定技術の開発などシーズ探索が中心となります。論文や学会、臨床医の先生などからの情報を分析しながら新しい診断コンセプトを作り上げていくため、最初から明確なゴールというものが設定さ

れていません。そのため、製品のアウトプットをイメージしながら、自分達が想定する診断コンセプトは本当に価値があるのか? ニーズはあるのか? どこにオリジナリティーがあるのかということなどを常に考えながら仕事をしています。模索しながら研究を進めていくため、仕事の自由度は非常に高いですが、逆に不確定要素も多く、研究したことが製品につながらないことも多くあります。いろいろな情報を分析しながら、宝探し(=製品につながる技術・診断コンセプト)をしていくのが研究職の特徴だと思います。そのため、経験よりもセンスが必要な職種ではないかと感じています。また、企業研究には、大学での研究とは異なる点もあります。たとえば、研究テーマは、会社が示す事業戦略を元に、選別されていきます。

「将来、〇〇分野に進出していきたい、〇〇の測定技術を獲得したい」など、会社の方向性に一致した研究テーマに重点が置かれていきます。また、企業にとっては論文や学会発表よりも特許の方が重要視されます。当社では売上に貢献した製品に使われている特許を発明した社員に対し、報奨金を支払う制度があります。競合他社と競いながら新製品を開発していますので、製品をリリースするまで安易に情報を外部へ漏らすというのは許さ

*シスメックス株式会社 HU ビジネスユニット UB プロダクトエンジニアリング本部 商品開発部
Oka.Noriko@sysmex.co.jp

れません。そのため、大学に比べ自由に外部発表や情報交換ができない、という制約があります。

一方商品開発は、どういう製品を、いつまでに作るかというゴールが明確に定められており、実際にお客様に提供できる形に製品の仕様を決定することが役割となります。実際に製品を製造するのは生産部門(工場)となります。開発職は家づくりに例えると「お客様の希望の家(=性能)」を実現するための設計図を作成し、どの大工さん(=工場)が見ても「同じ家が建つ(=品質)」ように細かな情報を設計図に書き込んでいく建築士のような職種だと思います。「お客様に安心して使っていただける製品」を作ることが役目であるため、開発部門では品質やユーザビリティを意識した業務が中心となります。お客様に安心して使っていただくために、製品の品質をどう担保するのか、機器のデザイン・試薬容器の形状をどうするのか、環境に配慮した原材料を使っているか、精度管理・トレーサビリティ体系はどうするのか、操作性はどうか、などの課題に対して臨床現場で起こりうるあらゆるリスクを想定しながら検証をしていきます。そのため、仕事内容は非常に地味ですが、機器系と試薬系が連携し、製品を作り上げていく工程は、「モノづくり」の面白さを実感することができます。また、開発職は、研究的な要素の仕事から臨床評価に関わる仕事、薬事申請に関わる仕事、生産に関わる仕事、物流に関わる仕事など、担当する業務は多岐に渡ります。さらに、製品を出荷するためには、さまざまな法規制を順守する必要があり、海外へ輸出する場合はそれぞれの国の規制に適合した製品にしていく必要があります。そのため、開発職では経験・知識が重要な要素となります。

II. 企業で働く醍醐味

私は異動当初、研究所と商品開発の仕事のスタンスの違いに戸惑いましたが、「モノづくり」の源流から下流までを経験できるのは、自身にとって大きなメリットだと感じています。同じ部署で、専門性を極めていくことも重要ですが、まったく違う分野を経験することで、専門性の幅も人脈も

大きく広がります。このことによって、新しい価値観を知ることができ、新しい発想が生まれると感じているからです。また、私自身、入社時から「新しい検査を作りたい」という目標は同じですが、どういう形でその目標に向かっていきたいかは日々変化しています。部署異動は、目標へのアプローチの手段を変える機会でもあるため、部署異動が比較的多いというのは企業で働くおもしろさの1つだと思います。

また当社は、開発から製造販売、サービス&サポートまで一貫体制でお客様へ製品を提供することを強みとしているため、多種多様な部署があります。バックグラウンドや専門性の異なる社員がお互いに連携し、企業理念である「ヘルスケアの進化をデザインする」という共通の目標に向かって、協力しながら仕事をしています。その結果、社員一人一人の力は小さくとも、チームワークを活かして成果(製品・サービス)を社会に還元していけるのが、企業で働く醍醐味だと感じています。研究職の場合は、比較的個人プレーの要素が多かりましたが、逆に開発職では、チームワークがとて重要になります。多くの人と関わって仕事をするのは大変ですが、組織の一員として、自分の役割を果たしていく責任感が仕事へのモチベーションへとつながっていきます。新入社員の頃、上司が「シスメックスという組織力を利用して、自分の夢を実現すればいい」と言っていた意味が、社会人10年目にしてやっと理解できるようになってきました。そのためは、自分は何をしたいのかという夢や未来像を描きながら、周囲に自分の意思を発信し働きかけていくことが大切だと感じています。その基本となるのは、常に問題意識を持ちより良い方向へ進もうとする姿勢と周囲から信頼されることであると思います。

最後に

実際に仕事をする、新たに勉強しなければならないことがたくさんあります。社会人になってから勉強することの方がはるかに多く、その内容も多岐に渡ります。しかし、その反面ゆっくり勉強する時間が取れないのが現実です。ですから、

学生時代の時間のある時に、専門知識だけでなく様々な分野の知識を習得し、基礎体力をつけておくよよいと思います。

また、どんな仕事でも(やりたくない仕事でも)、一生懸命取り組めば、必ず新しい発見や仕事のおもしろさに気づくことができます。そのため、何

事にも積極的に取り組むチャレンジ精神と柔軟性が、仕事を楽しむ能力だと私は感じています。みなさんも「今」の専門性や自分の感じる適性に縛られることなく、夢や目標を持って色々なことにチャレンジして行ってほしいと思います。